

松山大学論集
第三十卷第五十二号抜刷
平成三十年十二月発行

雜誌『國際聯盟』
總目次（一九二〇—二三年）

伊藤信哉

雑誌『国際聯盟』総目次（一九二〇―二三年）

伊藤信哉

はじめに

『国際聯盟』は、一九一九年四月に発足した（日本）国際聯盟協会が、一九二〇年一月に創刊した機関誌である。^①『外交時報』（二八九八年二月発刊）とならぶ、二〇世紀前半の日本を代表する国際問題の専門誌であり、当時の外交論壇にひろく見られた、国際協調主義を代弁する雑誌でもあった。^②

同誌は右記のように、一九四七年までに三度、誌名を改めている。また発行主体も、当初の国際聯盟協会から日本国際協会、日本外政協会、国際聯合研究会と改称を重ねた。

- ① 『国際聯盟』 一九二〇年一月―二二年 九月（一卷 一号―二卷 九号）
- ② 『国際知識』 一九二二年一〇月―三七年 三月（二卷一〇号―一七卷 三号）
- ③ 『国際知識及評論』 一九三七年 四月―四一年十二月（一七卷 四号―二二卷 二二号）

④ 『外交評論』 一九四二年 一月―四七年十二月(二二卷 一号―二七卷 九号)⁽³⁾

本資料は、これらのうち①に関する総目次であるが、今後②から④へと継承することも計画している。また一九三七年度の『国際知識及評論』への改題は、日本外事協会の機関誌『国際評論』との合併によるものだが、このもう一つの継続前誌である『国際評論』(一卷一号―六卷三号、一九三二年一月―三七年三月)についても別途、総目次を作ることを企図している。

これら各誌に掲載された記事や論説は、当時の日本知識人の対外認識を探るにあたり、しばしば参照され、分析されてきた。しかし過去に、雑誌全体を網羅する総目次や記事索引が作られたことはなく、そのため、重要な主張や見解が見落されてきた可能性も小さくはない。そこで本資料の作成者は、各誌がより有効に活用されることを期待して、誌面に直接あたって網羅的な総目次を作ることにした。本資料が、当時の日本知識人の対外認識に多少なりとも関心を抱く、多くの研究者の参考になれば幸である。

- (1) 国際聯盟協会については以下の文献を参照。緒方貞子「国際主義団体の役割」(細谷千博ほか編『日米関係史 開戦に至る十年——一九三二―四一年』新装版、第三卷(議会・政党と民間団体)東京大学出版会、二〇〇〇年に所収)。池井優「日本国際連盟協会——その成立と変質」『法学研究(慶應義塾大学)』第六八巻二号、一九九五年。岩本聖光「日本国際連盟協会——三〇年代における国際協調主義の展開」『立命館大学人文科学研究所紀要』第八五号、二〇〇五年。また当事者の回顧録として、山形誠「国連普及運動の五十年」がある(国際聯盟協会およびその後身たる日本国際協会・日本外政協会については、『国連』第四七巻六号―第四八巻一号、一九六八―一九六九年および第四九巻九号、一九七〇年に所収)。
- (2) 雑誌『外交時報』については伊藤信哉『近代日本の外交論壇と外交史学——戦前期の『外交時報』と外交史教育』日本経済評論社、二〇一一年、第一部を参照。
- (3) その後、国際聯合研究会を改称・改編して発足した日本国際連合協会によって、一九四八年四月に刊行が始められた月刊誌『国際連合』が、その巻号数を継承している。

凡例

- 一、明かな誤字・脱字は修正した。また旧字（いわゆる康熙字典体）は、原則として新字（常用漢字表の字体）に改めたが、国際聯盟の「聯」のように、旧字のままとしたものもある。この点については伊藤信哉「近代活字史料のデジタル化と文字コード処理」『松山法字』第七号、二〇〇五年を参照されたい。
- 一、総目次としての実用性の見地から、標題・副題・著訳者のそれぞれにつき、各号の目次と本文、末尾の署名欄などを調査し、より正確、詳細に記載されたものを採った。また必要に応じ、採録者が標題などを再構成した場合もある。
- 一、同じく総目次としての実用性の見地から、第一レベルの見出しまで採録するのを原則とした。
- 一、広告および埋草の類は、採録者の判断により取捨選択した。
- 一、〔※〕内は、採録者による註記である。

第一巻一号（創刊号・一九二〇年一月八日）

発刊の辞	総裁・公爵 徳川家達	一―一
国際聯盟に対する感想	会長・子爵 洪沢栄一	二―七
国際聯盟と国際聯盟協会との関係	副会長・男爵 阪谷芳郎	八―八
国際聯盟協会の必要なる理由	副会長・法学博士 添田寿一	九―二二
国際聯盟の効果未だし／独り政府にのみ委すべからず／我国に於ては特に必要也		

国際聯盟の思想と国際聯盟協会……………	法学博士 松田道一	一三一—一九
国際聯盟の公式出現と当時の輿論——昨年の巴里講和準備会・世人の様々の感想／聯盟の起因——十六世紀末・仏蘭西皇帝ヘンリー四世の考案／具体化したる聯盟の思想——米國に設立せられたる平和期成同盟会／国際聯盟の成立と其効力——理想家の眼及び實際的の見地より／国際聯盟協会の設立——其の目的と三回に互る聯合總會／聯盟協会は国民努力の枢軸——世界平和の為に正義人道普遍実行の為文化問題としての国際聯盟……………	文学博士 姉崎正治	二〇—二八
偏見或は偏信の一方からの判断、改造と云ふ思想の起る所以／人生社会に於ける自然の進化と急激の變化／国際聯盟の世界文化に対する価値／人類文化の変遷発達と人間の精神的態度／三百年前のグロチウスの模型観念、今や実勢力とならんとす／戦後の世界に於ける文化問題と改造問題／野蛮に対する文化の勝利——国際聯盟		
国際聯盟概論……………	杉村陽太郎	二九—二〇八
緒言／第一章 国際聯盟の成立／第二章 国際聯盟規約／第三章 国際聯盟の本体／第九章 国際聯盟の活動／第十章 国際聯盟協会〔※第四章は次号掲載、第五—八章は掲載されず〕		
国際聯盟協会々報		
(一) 協会成立事情……………		一—三
(二) 発起人会……………		三—一〇
座長洪沢子爵の挨拶／添田博士の開会辞／会則の審議決定／役員を選定		
(三) 第一回理事会……………		一〇—一一
協議事項……………		

第一卷二号（一九二二年二月一八日）

国家の存亡と国際聯盟……………尾崎行雄 二一―一五

武装的平和の総勘定／戦争再来防止の能否／人類に其の覚悟ありや／国際聯盟の前途／孤立せる日本の

現状／聯盟の主義を方針に／聯盟に対する必要の提議／歴史教科書の改良／国家の支出は公平に

国際聯盟に就て……………法学博士 山田三良 一六―三二

平和維持に関する思想の沿革／国際聯盟の理想と現実／国際聯盟の普及と擁護／国際聯盟と帝国の使命

国際聯盟と米国……………エム・エー・エル・エル・ビー 米田実 三三―四二

条約の新生面……………伊藤述史 四三―四五

国際聯盟概論（続編）……………杉村陽太郎 四六―四六

第四章 聯盟国

国際聯盟総会第一回會議……………七〇―一四〇

會議の開会との輿論／參列国と其の代表者／総会の組織／會議に於ける重要問題／総会に対する日本の

態度／聯盟総会批判

国際聯盟協会々報

〔十三〕 聯盟協會聯合会総会……………一四一―一五〇

〔十四〕 第一回宣伝委員会……………一五一―一五一

〔十五〕 第二回宣伝委員会……………一五一―一五一

〔十六〕 新聞記者招待会	一五一—一五三
〔十七〕 発会式兼講演会	一五三—一五三
〔十八〕 各地宣伝講演会	一五四—一五四
〔十九〕 刊行物	一五四—一五四
〔二十〕 第七回理事會	一五四—一五八
報告／協議／動議	
〔二一〕 珍田伯松井伊集院両大使招待會	一五八—一六三
珍田伯講話／松井大使談話	
大正九年度會費領取報告	一六三—一六八
海外との通信	
一、ガーネット氏より	一六九—一六九
二、セシル卿より	一六九—一六九
三、ブレット氏より	一七〇—一七〇
四、ローウェル博士より	一七〇—一七一
五、小冊子の寄贈	一七一—一七一

第一卷三号（一九二一年五月一日）〔※発行日は奥付と裏表紙による。表紙は四月発行〕

国際聯盟第一回総会——スイス、モッタ氏の演説……………	口	繪
国際聯盟総会……………	口	繪
国際聯盟総会の前晩に於ける国際聯盟理事会員の会合……………	口	繪
国際聯盟総会……………	口	繪
論説		
法律の国際化……………	東大教授・法学博士	穂積重遠
国際法の値打／公法と私法／国際公法／国際立法と国際司法と国際行政／国際私法／世界法運動／法律の定義……………	二一九	
聯盟の法律観……………	外務書記官	松原一雄
国際聯盟は世界平和の維持を目的とす／国際聯盟は多数国家により組織せらる／国際聯盟は規約関係なり／国際聯盟は一定の国際協力を約せるものなり／聯盟は多数国の盟約なり……………	一〇―二四	
国際聯盟精神と国際聯盟政策との区別……………	法学士	稲垣守克
米国前國務卿ランシング氏の「講和秘録」を評す……………	法学博士	添田寿一
ラ氏の心事／著書公表当否／山東と人種問題／山東問題と日本の決心／日本の主張復活と伊国の撤退／山東問題曲直／著書の悪影響／米人の批評／日本の態度／結論と希望……………	二五―四二	
	四三―五七	

講演

呪はれたる平和思想……………東大教授・法学博士 吉野作造 五八―六四

国際聯盟に就て……………特命全權大使・男爵 松井慶四郎 六五―七四

世界の平和……………代議士 関直彦 七五―七九

国際聯盟と軍備の将来……………法学博士 添田寿一 八〇―八七

聯盟協会々報

(二二) 第八回理事会……………八八―九三

報告／協議／動議

(二三) 田中館博士外五氏招待会……………九三―一〇四

徳川総裁挨拶／田中館博士談話／国際聯盟とオリンピック大会——嘉納治五郎氏談話

(二四) 第九回理事会議事要録……………一〇四―一〇七

報告／協議

(二五) 第一回評議員會議事報告……………一〇七―一一七

洪沢会長挨拶／添田副会長より事業報告／井上理事より会計に関する報告／議事／松井大使講話／秋月

理事談話／言葉に就いて——松井大使

聯盟彙報

第十一回聯盟理事会……………一一八―一二〇

第十二回聯盟理事会……………一二〇―一二二

海外との通信……………一二二―一二三

仏国の協会より……………	一一二—一一三
英国国際聯盟協会よりの通信……………	一二三—一二三
独乙国際聯盟協会エスペラント委員会よりの通信……………	一二三—一二七
雑報	
大正十年度会費領収……………	七九—七九
書籍寄贈……………	七九—七九
新入会者名簿……………	一二七—一二七
大正九年度会費領収……………	一二七—一二七
大正十年度会費領収……………	一二七—一二七
国際聯盟協会事務所に就いて……………	卷末

第一卷四号（一九二一年七月一日）

聯盟国及其領土並委任統治区域……………	口絵
第四回聯盟協会聯合会出席本邦協会代表者……………	口絵
国際聯盟協会事務局……………	口絵
我等の進路……………	卷頭言

論説

一 国際聯盟の精神

国際道徳……………子爵 洪沢栄一 二一五

聯盟の現状／米国と国際聯盟／聯盟の必要／聯盟協會／国際道徳の促進

国家精神と国際精神……………高島平三郎 六一—四

国際聯盟の価値……………衆議院議員 植原悦二郎 一五—二七

真実の困難を知れよ……………文学博士 三宅雪嶺 二八—三一

二 国際聯盟の研究

国際聯盟の人類の準備……………文学博士 吉田静致 三二—四六

国際聯盟の概念……………窪田文三 四七—五六

世界協力団体の理論研究……………稲垣守克 五六—八〇

緒言／法律、経済及文化団体としての世界／法律団体としての世界／経済的協力団体としての世界／文

化団体としての世界

三 国際聯盟と軍備

国際聯盟と軍備制限……………貴族院議員 坂本俊篤 八一—九三

緒言／欧洲大戦と其意義／軍備制限は果して可能事なりや／世界各国は果して軍備制限を歓迎しつつあ

りや／軍備制限問題の困難は唯実行に在り／寧ろ軍器制限より入るを捷徑とせずや／軍備制限は先づ各

国相互の信義に須たさる可らず／国際聯盟協會の任務

軍備制限論小観……………衆議院議員 田川大吉郎 九四—一〇三

真の平和の為に——国防の経済的基礎……………大阪朝日新聞編輯長 高原操 一〇四—一六

四 国際聯盟と日本

国際聯盟と日本の主張……………法学博士 末広重雄 一一七—一九

国際聯盟と国民の覚悟……………法学博士 織田万 一二〇—一二〇

国際聯盟と日本……………大阪毎日副主幹 高石真五郎 一二一—一二二

国際聯盟と世界の危機……………法学博士 添田寿一 一二三—一三六

五 国際聯盟の実際

世界の平和と国際聯盟の活動……………特命全權大使 松井慶四郎 一三七—一三九

雑 録

世界の平和と国民教育…………………………五—五

利害か、感情か…………………………二七—二七

戦争と労働者…………………………三一—三一

世界大戦々費…………………………九三—九三

移民権について…………………………稲垣 一〇三—一〇三

独逸大統領の檄文…………………………一九—一九

新愛国論…………………………一二一—一二二

聯合国の反省…………………………一三六—一三六

愛国心…………………………ロマンローラン 一三九—一三九

フリード先生の死…………………………一四〇—一四〇

世界平和の為に誠意を披瀝せよ……………	亀井陸良	一四一—一四五
民族の移動と細胞の運動——アンテキメテックに対する所感……………	理学博士 田中館愛橘	一四五—一四七
山陽遊記……………	貴族院議員 坂本俊篤	一四七—一五〇
日英同盟論——日英同盟と英米の関係……………		一五〇—一六五
英米間の関係——英米両国人の所見／国際聯盟と日英同盟等／日英同盟と国際聯盟（坂本俊篤）／日英同盟は継続すべきや（頭本元貞）／日英同盟必要論（添田寿一）／日英同盟の影響（植原悦二郎）／日英米同盟論（阪谷芳郎）……………		
世界の心を結びて……………	稲垣守克	一六五—一八八
聯盟の宣伝と国民の共鳴……………	稲垣	一八八—一九一
平和主義者と軍人との会話……………		一九一—一九一
国際聯盟協定会報		
第一回総会……………		一九二—二〇七
渋沢会長開会の辞／添田副会長事務報告／井上会計監督会計報告／役員改選／動議／徳川総裁挨拶／内田外相挨拶……………	伊達源一郎	二〇七—二〇九
国際聯盟協会の性質について……………		二〇九—二二二
第十回理事會……………		二二二—二三三
報告／協議／動議……………		二三三—二三三
第十一回理事會……………		二三三—二三三

招待会.....二一三―二一三

第五回聯合会総会準備.....二一三―二一五

第四回聯合会総会／聯合会理事会／四月廿一日バレー、デ、グモンに於ける聯合会役員会／本邦協会代

表者の選定／第五回総会々期変更

各地講演会.....二一五―二一七

新規入会者名簿.....二一七―二二〇

醸金申込者.....二二〇―二二一

国際聯盟協会役員名簿.....二二一―二二三

編輯室より.....稲垣.....二二三―二二三

懸賞論文募集.....卷末

第一卷五号（一九二二年八月一日）

人類の前途.....卷頭言

国際聯盟の成績.....法学博士 小野塚喜平次.....二二一

聯盟の国際立法作用.....法学士 沢田謙.....二一―三四

法の支配／法律としての国際法／聯盟機関の決議／司法的立法作用／立法的条約の原則／聯盟立法の意義

露西亞と国際聯盟.....総領事 花岡止郎.....三五―四八

露西亜は目下の処では国際聯盟には縁が遠い。／露西亜の現状と国際聯盟／露国国民性と国際聯盟／露 国政党と国際聯盟／露西亜と国際聯盟の将来に対する希望	四九一—五〇
ワシントン会議に際して世界人類に檄す	五一—五一
組織の改造と心の改造	五一—五一
時事評論	五二—五二
仏蘭西と国際聯盟	五三—五八
前仏首相 ヴィヴィアニ	五三—五八
国際聯盟規約と第一回聯盟総会	五九—六六
法学博士 長岡春一	五九—六六
聯盟総会の実況と欧米視察談	六七—七三
男爵 目賀田種太郎	六七—七三
軍備縮少、阿片取締、山東問題、労働及委任統治に関する日本国際聯盟協会の決議	七四—七四
支那の日英同盟更新反対の理由	七四—七五
歴史の判断は頼むに足るや	七五—七五
独逸 ビクトル・アウブルティン	七五—七五
製艦問題の趨勢	七六—八三
桂英士	七六—八三
戦闘艦か潜水艦か／不安の原因／戦争前の製艦競争／主力艦に対する不平／将来戦争の場合は如何／戦 闘艦は時代後れである	八三—九一
英国 シスリーハツドルスン	八三—九一
超国家か、政府聯盟か、人民聯合か	八三—九一
編輯を終りて	卷末

第一卷六号（一九二一年九月八日）〔※発行日は奥付による。目次と裏表紙は一日発行〕

世界の改造……………卷頭言

軍備縮少、太平洋及極東問題會議に就て……………男爵 阪谷芳郎 二一五

国際聯盟の取扱ふ社会問題……………泉哲 六一一

婦女子の売買禁止／火器及彈藥販売取締／阿片売買の制限……………島田三郎 一五二〇

国際聯盟雜感——世界平和に必要なる道德……………前特命全權公使 三浦弥五郎 二一―二五

国際會議所感……………男爵 坂本俊篤 五九―六四

太平洋問題……………男爵 坂本俊篤 五九―六四

太平洋と米国の膨張策／太平洋と根拠地／太平洋と三国海軍…………… 六五―六七

委任統治と議會の権限…………… 六八―七〇

移民問題と国際聯盟……………米国前國務卿 ブライアン 七一―八一

民族關係と国際語……………博士 ザメンホフ 七一―八一

生物学より見たる戦争……………博士 ゲー・エフ・ニコライ 八二―九一

戦争本能／部族本能／人間と獸との區別／戦争の必然的対価…………… 八二―九一

聯盟本部消息

第十三回聯盟理事会…………… 二六―二八

今までに開かれた聯盟理事会…………… 二八―二八

聯合会消息

- 第五回国際聯盟協會聯合会総会……………二九―三八
- 本邦協會側の準備／会議の経過……………
- 国際聯盟月報（第一号　一九二一年四月）……………ジュネーヴ国際聯盟情報部　三九―四九
- 序言／概観／バルセロナ国際交通會議／聯盟規約修正委員會／常設国際司法裁判所／埃太利復旧問題／波蘭、リスアニア紛争／ザール炭田に関し交換されたる文書／波蘭に於けるチブス／アルメニア人追放に関する委員會／武器及軍需品取引／条約の登録／露国避難民／調査委員／聯盟の財政事項／聯盟本部建物の代金支払／公報第九号／會議曆表……………
- 時事評論……………
- ワシントン會議側面観……………五七―五八

雑録

- 英国聯盟協會より……………三八―三八
- 米國世界平和建設協會（World Peace Foundation）よりの來状……………四九―四九
- 英国國際聯盟協會に於て承認せられたる議案（一九二一年三月二九日）……………五〇―五二
- カナダ國際聯盟協會……………五二―五四
- サー・ジョージ・フォスター氏の演説／ピールランド博士三重の義務を説く／その日の決議／カナダの代表的団体／婦人と宗教家と教育家……………五四―五四
- 英国聯盟協會の活動……………五五―五五
- 日本國際聯盟協會の活動……………五五―五五

内地に対する宣伝／協合理事会の活動／聯盟情報部との情報の交換／各国平和団体との関係

ワシントン会議に関する日本聯盟協会の声明……………五六―五六

国際聯盟……………卷末

国際聯盟協会……………卷末

聯合会……………卷末

第一卷七号（一九二一年一〇月一日）

国際聯盟と我等……………卷頭言

国際聯盟協会聯合会第五回総会日本協会代表者……………口絵

国際聯盟經濟封鎖委員会……………口絵

軍備縮小会議に際し日本国民の覚醒を促す……………尾崎行雄 一―五

地方遊説の結果／聴衆の態度／軍閥の宣伝行き渡る／新聞記事の注意／排外熱／幕末の形勢あり／軍備

縮小／ワシントン会議と各国の誠意／太平洋問題可否／愛する日本の国よ

国際聯盟と財界問題……………海外財務官 森賢吾 六一―二二

緒言／国際財政会議の開催／財界問題解決の暗礁（独逸賠償額決定問題）／賠償委員会活動の困難／理

論的正確よりも実行的速決の必要／賠償問題に関する最高会議の開催／聯合國間の賠償金分配割合の問

題 附ブローローニユの計画／ブラツセルの国際財政会議／国際信用計画の考案／ターメーラン・スキー

ムの要領／賠償額決定に関する巴里協定／賠償委員会の決定／賠償履行方法／聯盟将来の活動

太平洋問題 (其二)	男爵 坂本俊篤	一三一—一六
太平洋と島嶼防備問題		
国際時事		一七—二〇
米国と聯盟加入 / 英米日三国協定成否 / ワシントン議題無制限 / 委任統治と海底電線 / 山東解決条件と		
米国 / 人口問題と日本の発展 / 国際司法裁判所判事選挙 / 十条削除の可否 / エルツベルゲル暗殺 / 独逸の賠償支払		
聯盟総会 第二回 ジウネーヴ		二一—二三
開会 / 議長 / 副議長 / 委員会 / セシルと委任統治 / バルフォアと軍備縮少		
聯盟理事会 第十四回 ジウネーヴ		二四—二四
聯盟の事業 (一九二〇年一月より一九二一年四月一日迄)		二五—三五
序説 / 国際聯盟の組織並びに事業 / 国際聯盟の政治問題に関する事業 / 国際聯盟の人的活動 / 国際的協力の発展を事業の目的とする組織に対し国際聯盟が与へたる援助		
聯盟の五月 (国際聯盟月報第二号 一九二一年六月一日発行) ジウネーヴ聯盟事務局		三六—五〇
概説 / 聯盟の各委員会 / 経済財政問題 / 政治問題 / 行政問題 / 人道問題 / 公報——理事会議事の公表 / 会議曆表		
英国国際聯盟協会を訪問す	東宮殿下御渡欧供奉員 沢田節蔵談	五一—五二
米国対外政策協会 (The Foreign policy association) の組織及活動		五三—五五
設立 / 組織 / 活動 / 華盛頓会議の成功を祈る——米国対外政策協会の論説		
英国国際聯盟協会の国際聯盟日行列		五六—五六

諸平和団体よりの来信……………	五七―五九
各民族聯合促進協会より／独逸の聯盟協会より（移民権について）／新父国団体のレーマン氏より／ハ ンガリーの国際聯盟協会より／フランス国國際聯盟協会より／米国独立保全協会より／カーネギー平和 財団ハスケル氏より／ジユネーヴ藤沢氏より	
最近日本の平和運動……………	六〇―六六
日本國際聯盟協会の活動／世界平和期成同盟会／キリスト教徒世界聯盟／尾崎氏の平和運動／太平洋問 題研究会／婦人の平和運動／日本平和協会／平和団体の協力／世界平和会／軍備縮少同志会／平和的大 運動の必要	
米国婦人の平和運動 北米合衆国婦人団体の平和宣伝の概——消極的戦争拒否の誓約	六七―七一
有色人種問題……………	七二―八〇
有色人種の二要求／阿弗利加は如何／米国の黒人／白人の取るべき方針	
生物学より見たる戦争……………	八一―九〇
第二章 戦争と生存競争／（何故戦争が起るか）／（エネルギー占有競争）／（人類の努力）／第四章 自由 と必然	
雑 録	
一九二〇年度米国歳出割当額……………	一六一―一六
一九一三年―一九二一年日本政府各省予算増加率……………	一六一―一六
日本國際聯盟協会の会員数……………	五〇―五〇

戦争は無資産階級を富ますか……………九一―九一
 国際聯盟……………卷末
 国際聯盟協会……………卷末
 聯合会……………卷末
 日本国際聯盟協会……………卷末

第一卷八号（一九二一年一月一日）

聯盟協会総裁徳川家達公送別会紀念撮影……………口絵
 七月三十一日ベルリンに於ける「戦争は再びしまいぞ」の大示威運動……………口絵
 平和的解決を祈れるアイルランド婦人の群……………口絵
 「戦争は再びしまいぞ」の示威運動 ルストガルテン……………口絵
 ヨークシヤのオセツト市に於ける屋外講演会群集……………口絵
 軍備縮少と日本の将来……………会長 洪沢栄一 一―三
 経済と平和／軍備縮少の必要……………国際聯盟協合理事・法学博士 林毅陸 四―七
 法治国家より法治世界へ……………国際聯盟協合理事・衆議院議員 田川大吉郎 七―一六
 暴力の支配か法の支配か／国際聯盟の目的／聯盟の機関／ワシントン会議の招集／アメリカ合衆国の態
 度と国際聯盟／法治世界へ
 世界の第一維新……………国際聯盟協合理事・衆議院議員 田川大吉郎 七―一六

雜 録

懸賞論文成績発表(中学程度)	表紙裏
戦争と女子	三五―三六
国際聯盟を殺さんとせば	三六―三七
国際聯盟に代はるものは	三六―三七
北部仏蘭西の復旧	三七―三八
在米日本人会事情	三八―三九
軍備縮少のためには各国は一致せよ	三九―三九
日本平和運動最近の消息	三九―四二
国際聯盟協會／各平和団体の聯合運動／日本婦人の平和運動／世界の姉妹と共に 海外よりの通信	四二―四三
平和強制同盟会より／インターナショナル、コンシリエーションより／ポストン婦人参政権聯盟より／ 英国々際聯盟協會より／新祖国団体より	四三―四三
第十回平和主義者大会	四三―四三
太平洋問題(其三)——太平洋と華府會議	四四―五〇
男爵 坂本俊篤	
太平洋の範圍／太平洋の諸島岐に領土保全主義を適用し、其防備を撤廢すること／太平洋を通じて門戸 開放主義を実行すること／巴奈馬運河を中立とすること／通商航海に関して自由主義を採用すること。 ／沿岸貿易に関する制限を撤廢すること／結論	

聯盟の六月（一九二一年七月一日発行）…………… ジュネーヴ国際聯盟事務局情報部 五一―七五

概説／聯盟の各委員会／経済財政問題／政治問題

国際聯盟協会聯合会第十三回理事会（埃国ウイン市）…………… 七六一―七七

開会／議事大要／国際聯盟宣伝大会／聯合会長及副会長の改選

寄贈書目…………… 七七一―七七

英国国際聯盟協会の活動…………… 七八―七八

欧州時事断片…………… 七九―八〇

ドイツ近状 バイエルンの政変／シレジア問題とドイツの輿論／オーストリア近情／ロシア近状

生物学より見たる戦争…………… ニコライ 八一―九一

第三章 戦争淘汰／（淘汰と教育）／（戦争は健康を促進するか）／（戦争に特有なる影響）／（価値の転換）

十一月十一日と平和…………… 卷末

聯盟協会…………… 卷末

第一卷九号（一九二一年二月一日）

国際聯盟第二回総会の光景…………… 口 絵

第二回聯盟総会第二委員会（交通）の光景…………… 口 絵

聯盟理事会会議の光景…………… 口 絵

第二回聯盟総会議長和蘭国外相カルネベーク…………… 口 絵

国際聯盟事務局事務総長サー・イーリック・ドラモンド	口絵
千九百二十一年	巻頭言
若し将来戦争起らば	一―一三
第一 其は如何なる形を以て行はる、乎／(毒瓦斯の使用)／(爆弾投下用としての飛行機)	一四―一六
華府會議に際し——日本の輿論側面觀・軍国主義の一側向	一四―一六
華府會議招請当初の輿論。／會議開会後の論調。／新聞の題目の注意。／日本国民は平和的なりや。／人種	一四―一六
平等主義と帝国主義者。／軍国主義と平和主義。／国防と侵略主義。	一七―一七
米國婦人参政権者と軍備縮小決議	一七―一七
學校と國民の親交	一七―一八
獨逸より(エスペラント)	一八―一八
聯盟の七月(一九二一年八月一日發行)	一九―三〇
概説／聯盟の機關／經濟財政問題／政治問題／行政問題／社會問題	一九―三〇
創設一年有餘の國際労働局(千九百二十一年七月)	三二―四三
誕生とその發育／職能と組織／特殊の活動／前途	三二―四三
南米太平洋岸問題と二十一年度聯盟總會——タクナ、アリカ地方に関するチリ、ボリヴィア、	四四―五一
ペルー三国係争事件	四四―五一
聯盟の六月(前号に続く)	五一―六一
行政問題／社會問題／會議曆表	五一―六一
在亞公使館 荒井金太	五一―六一

南アフリカ聯邦に於ける人種問題……………F. Y. Stone	六二一六四
白人の態度／インド人の態度／アジア人問題調査委員会の勧告案と之に対するイギリス・インド人協会の批判	
最近日本の平和運動……………	六四一六四
国際聯盟協会の活動／平和運動聯合大会／其他の平和運動	
和蘭に於ける「再び戦争はしまいぞ」……………	六四一六五
国際時事断片	
華府会議に関する市俄古「ジャーナル、オヴ、コンマース」十一月六日華府特電要領……………	六六一六六
華府会議に関する十一月十日「パブリック、レッジア」「ワイル」の論説要旨……………	六六一六七
米國「ヒュー、ジョンソン」大将の日本の發展に関する論説……………	六七一六八
労農政府の英政府宛声明……………	六八一六八
旧露国戦前債務承認に関する独逸新聞論調……………	六八一六九
上部「シレジア」裁定に対する波蘭首相声明……………	六九一七〇
上部「シレジア」裁定に対する独逸新政府の態度……………	七〇一七一
波蘭「チェッコ、スロヴァキア」新協約……………	七一七二二
奥国内閣改造……………	七二一七二
世界平和郵便切手（平和投票）……………	七二一七二
委任統治論……………	七三一八三
沢田謙……………	

委任統治制——スマツツ案とウイルソン案／領土主権——第二十二条と第百十九条／委任統治協約——
 対等関係／領土権——委任統治の種類／領土主権と領土権——私法的契約との類比／聯盟と受任国の権
 利義務——結論

国民に及ぼす戦争の利害——「戦争生物学」第四章……………ニコライ 八四—九二

戦争は何等の価値を創造せず／近代の戦争は収支償はず／植民地に就て／戦勝の夢と敗北の利益／戦争
 の国民経済に及ぼす影響／生命の武器。勤労と知慧。

雑 録

勝てるフランスの悩み……………一三一—三三

世界の食糧……………三〇—三〇

独逸の露西亜救済——赤十字の活動……………四三—四三

研究会について……………六五—六五

日本基督教会と国際聯盟……………九二—九二

一九二一年を送りて……………卷 末

聯盟協会……………卷 末

第二卷一号（一九二二年一月一日）

吾人の進むべき道……………卷頭言

国際聯盟とワシントン会議……………本会理事・法学博士 山田三良 一—五

歐洲の今日／国際聯盟の成立は人類史の一紀元／国際聯盟に対する種々の非難／聯盟の前途／日米戦争の風評／日米戦争の不可能／華盛頓会議／米国の主唱／太平洋問題／太平洋の新時代

将来の戦争（※前号「若し将来戦争起らば」の続き）……………アーウイン 六一—三

（爆弾投下用としての飛行機）／（巨砲巨弾の威力益々加はる）／（恐るべき装甲自動車）／（直接戦争に縁なき財物の破壊）／第一 将来の戦争を想像す／（次の戦争は第一に毒瓦斯を以て戦はれん）

国際聯盟月報（八月第五号）——シレジャ問題・経済封鎖委員会・保健委員会・露国避難民救助

……………聯盟事務局情報部 一四—二一

概説／聯盟の機関／社会問題

国際聯盟常設事務局の組織……………国際聯盟常設事務局情報部 二二—二九

第十三回世界エスペラント大会……………国際聯盟常設事務局情報部 藤沢親雄 三〇—三七

国際聯盟常設事務局事務次長新渡戸博士がエスペラント語に関し聯盟に提出したる報告の概要……………三八—四五

エスペラント運動に関する觀察／言語問題と国際聯盟／附録・国際聯盟第二回総会決議文

戦争は止められないものか……………米国 ハリー・エマーソン・フォスディック 四六—五四

破産に向つての競争！／何の必要があつて…／逃げ口上！／我々は世界の進歩を妨げてゐる

米国に於ける軍縮宣伝……………五五—五七

軍備縮少の必要／軍備縮少運動に就て

キリストの平和……………Bishop Brent 五八—六一

真の国際聯盟は如何なる手段を以て実現すべきか……………ハリー・グラーフ・ケスラー 六二—六六

主旨／理由

米國に於ける移民の現状及び将来……………プレスコット・エフ・ホール 六六一―七二
 軍國主義研究——陸軍軍國主義と海軍軍國主義……………

(リーブクネヒト著「軍國主義と反軍國主義」の中より〔大戦前〕……………七三一―八二

プロレタリアーと戦争／「内部に対する軍國主義」の特質、及びその任務。／外国に於ける軍隊組織

國際聯盟協會万国聯合會理事會——自大正十年十月十三日至同十五日 會員 太宰施門 八三一―八六

事務局會議／第一回理事會々々議／第二回理事會々々議／第三回理事會々々議／第四回理事會々々議／第五回理

事會々々議……………〔※号目次では本記事の著者は法学博士・岡実となっている〕

雜 錄

懸賞論文成績發表(高等学校程度以上)……………表紙裏

英國國際聯盟協會の資金募集運動……………二九・三七

フランスの陸軍……………五七・六一

第二卷二号(一九二二年二月一日)

平和は建設なり……………卷頭言

次の戦争(承前)……………Will Irwin 一―一二

(毒瓦斯)／(本職軍人の意見)／(新殺人器の發明に没頭す——光線及び病菌)／(軍隊と軍隊との戦闘)／

(歩兵隊の用不用)／(毒瓦斯の防禦法)／(殺人光線及び病菌)／(財物の破壊)

國際聯盟月報……………國際聯盟事務局情報部 一三一―一九

概説／理事会／聯盟総会

四国協約成りて国際聯盟益々鞏固なり——四国協約の成立は米国の聯盟加入と、国際聯盟の拡張及

進歩を意味し、聯盟の将来に光明を与へたり。……………稲垣 二〇―二二

米国の聯盟加入／国家聯合／聯盟の将来

ゲルハルト・ハウプトマン独逸の将来を説く……………二三―二五

国際評論

国難来か国福来か……………二六―二九

軍備縮小と失業……………二九―三〇

軍備縮小の利益……………三〇―三一

或軍需品工業家の観たる戦争——戦争では結局損をする……………三一―三三

国際教育問題 国際的反目の由来……………三三―三五

国際教育問題の討議……………三五―三六

国際教育問題の要点……………三六―三七

歴史教授に関するウエルス氏の意見……………三七―三九

世界平和に対する婦人の力……………三九―四一

世界平和と婦人参政権……………四一―四二

国際財政問題資料

独逸最近財政状態……………四三―四六

増税／財政緊縮／「クレヂット」／「モラトリウム」問題

軍国主義の起原……………ニコライ 四九―五七

戦争近く自滅せんとす／防禦を口にすることの無意味／戦争は科学の発達を促すものに非ず／職業軍人と人民軍／徴兵制度

懸賞論文

新日本の世界的使命……………島根師範四年生 稲田正次 五八―六二

世界新文化の開展と日本……………手塚小南 六三―七四

一・戦禍と世界中心勢力の移動／(欧州文化の破壊)／(新興の二大勢力)／二・世界改造の中心思想／(戦争の倫理的省察)

世界経済の研究(上編)……………岡野文之助 七五―九三

緒言／(序論 世界の不安と経済問題)／第二章 世界の経済組織と国際聯盟——併に世界平和との関係)／本論／(第一章 生産機関問題)／附・国際トラスト問題

雑録

華府より……………一九―一九

日本国際聯盟協会消息……………四六―四六

維也の四日間……………太宰施門 四七―四八

世界的懸賞論文……………六二―六二

華府に於ける日本国際聯盟協会……………杉村陽太郎 九四―九四

第二卷三号（一九三二年三月一日）

人類の覚醒……………卷頭言

論説

民法学者の国際関係観……………法学博士・本会理事 穂積重遠 一―八

権利論から観た国際関係／契約法理から観た国際関係／法人理論から観た国際関係／民法の内容から観た国際関係／民法の原動力より観たる国際関係

加州問題を論じて人種問題に及ぶ——加州問題の経過・その解決の方法・

米人の移民排斥の理由・人種問題……………外務省書記官 赤松祐之 九―一七

国際聯盟の発達……………柳田国男 一八―二三

愛国心の研究——「戦争の生物学」第四編の前半紹介……………ゲー・エフ・ニコライ 二四―三四

愛国心の起原／祖國的愛国心／種族的愛国心／文化的愛国心

懸賞論文

世界経済の研究……………岡野文之助 三五―五六

(第二章 国際聯盟と労働問題)／(第三章 国際交通問題)／(第四章 交換機関問題)／(第五章 経済

的平等(機会等均等門戸開放の問題)併に人口問題と植民問題)／(第六章 国際聯盟の経済的制裁機関)

／(第七章 国際聯盟の経済的機関)／(第八章 国際聯盟の財政的基礎——経費分担の問題)／結論

世界新文化の開展と日本（下編）……………	手塚小南	五七一六一
（国家主義より国際主義へ）／（国際聯盟と其の弱点）／（世界国の批判）／三、新日本の世界的使命／（世界平和の支持者）／（平和的精神の宣明）／（軍国主義の打破）／（愛国心の拡大と教育の革新）		
国際教育問題		
歴史教授法改革の急勢……………	アイリーン・パワー	六六一六九
今迄の歴史教科書は事実の真相を語つてゐたか？／今迄の歴史教科書は歴史教授の目的に適つてゐるか？／最近の喜ぶべき形勢		
世界平和に対する教育の使命……………	高島平三郎	七〇一七二
世界時事問題の研究		
上部シレジア問題の解決……………		七三一七六
上部シレジアの富／パリ平和會議の決定／人民投票の結果／英仏關係の危険／聯盟理事會の決定		
新アイルランド自由国……………		七七一八五
イギリスとアイルランドの反目／アイルランド内部に於ける南北の反目／アイルランド国民党の興起／アイルランド自治法案／第三回自治法案と世界大戰の勃発／戦時及戦後のアイルランド／第四回自治法案通過と其の後の暴動／一九二二年十月十一日のロンドン會議／アイルランド自由国の創設		
ワシントン會議の成果一覧……………		八六一一〇〇
軍縮會議の開かるゝに至る迄／海軍縮少協定／陸軍縮少協定／太平洋問題／支那問題／シベリア撤兵問題		
題		
ドイツフランス關係の現状……………		一〇一一一〇四

カンヌ会議からゼノア会議へ……………一〇四—一〇五

雑 録

日本国際聯盟協会の消息……………一〇六—一〇八

松山支部の設立——地方に於ける機運

アルメニア救済——日本国民に対する訴へ

……………近東救済委員会・博士 リンカーン・エル・ワート 一〇九—一一〇

第二卷四号（一九三二年四月一日）

海外より帰朝せられたる本会幹部……………口 絵

最後の国際道徳……………卷頭言

論 説

華府会議と日米……………本会副会長・法学博士 添田寿一 一一六

会議の起因／会議の経過／会議の成果／会議と日米関係／今後の日米関係／今後の国際聯盟と聯盟協会

国際大学論其他——米国で話した事相談した事……………本会理事・衆議院議員 田川大吉郎 七一—七八

ナシヨナル・ポピュラー・ガヴァメント・リーグに於ける演説／ポートランドに於ける演説／民間軍縮

運動の実況／日本の陸軍とフランスの陸軍／国際大学が出来た暁には

ワシントン会議所感……………本会理事・法学博士 林毅陸 二〇—二四

大局より觀察するの要／自国の利益と世界共通の利益／会議の模様／会議の収獲／吾人の覚悟

将来の戦争は斯かるものである——将来の戦争終結……………	ウイル・アーウキン	二五—三九
潜水艦の威力／統計家の数字を牢記せよ／戦争の最大損害／国民の精華が先づ亡ぶ／女子も免るゝ能はず／全人類の根だやし／物質上の損害／又世界戦争である／軍備競争／国際聯盟の努力すべき所		
愛国心の墮落——「戦争の生物学」第一卷第三編後半紹介……………	ゲー・エフ・ニコライ	四一—四八
ニコライ教授のドイツ脱出記		
人類平和実現の爲め婦人の覚醒を望む……………	尾島喜久恵	五一—五六
人類の歴史は理想の歴史／一般人類の世界的聯盟／戦後の惨状／婦人の活動		
国際時事問題の研究		
支那の鉄道——各国の対支政策概観……………	外務書記官・法学士 栗野昇太郎	五七—六三
支那鉄道地図／各国の鉄道管理権獲得時代／借款鉄道時代／列国協調の支那開発時代		
近東問題とは何ぞや——基、回函教徒の接点としての近東		
……………		
外務省囑託 大久保幸次		六五—七八
近東問題は寧ろ宗教的／近東に於ける基督教／近東に於ける回々教／トルコ帝国／トルコ帝国の衰運／世界大戦の結果とセーブル条約／近東に独立せんとする諸民族／アルメニア問題／ギリシヤとトルコとの紛争／回々教徒の憤起		
国際聯盟月報——第二回総会記事承前……………		七九—八九
規約修正／条約登録／経済封鎖／臨時経済財政委員会／交通通過諮問委員会／臨時保健委員会／国際統計／智的労働の統一／非常任理事会員／事務総長及び国際労働局／聯盟本部所在地問題／経費分担／聯盟の財政／新聯盟加入		

支那の近状……………	九〇―九六
ゼノア会議……………	九七―一〇一
カンヌの会議／ゼノア会議延期の理由／ゼノア会議四月十日開催／最近の形勢	
海外より歸りて……………	
会議外交の新生面——ワシントン會議に參列して……………	一〇三―一〇五
人種平等——聯盟協會の使命……………	一〇六―一〇九
先づ公立の國際聯盟に就て／私立の國際聯盟に就て／聯合會議の議案となつた重要案件	
雜 錄……………	
フランス人の理智性……………	一八一―一九
世界銀行設立案……………	三九―四〇
サー・デヨーザ・ペーシユの案／ターミューラン計畫／ヒツチコツク氏の世界銀行案	
ドイツとフランスとの平和を計る熱烈なる運動……………	四八―五〇
イギリス國際聯盟協會の近況……………	五六―五六
世界平和期成人民協會よりの來簡（一月二十三日）……………	六四―六四
アメリカ國際教育協會の懸賞論文……………	七八―七八
日本國際聯盟協會の消息……………	一〇二―一〇二

第二卷五号（一九二二年五月一日）

人口問題と日本……………卷頭言

論説

ワシントン会議と其の後——戦後の世界・国際聯盟とワシントン会議・

戦争の跡と平和の栄・残されたる仕事……………外務省参事官 沢田節蔵 一―八

聯盟の社会人道事業……………法学博士 新渡戸稻造 九―一四

平和論者ジャン・ジヨレースを想ふ……………法学士 青木節一 一五―二二

戦争と平和の文学……………ゲー・エフ・ニコライ 二三―三五

戦争に対する批判／平和に〔※一字不明〕る、声／戦争の文学／好戦文学の勃興

人種平等論の究極……………法学士 稲垣守克 三六―四五

国際正義／公の秩序／特権拋棄／現状維持時代／平和とは何ぞや／人類の範囲／圧迫の平和／改造整理

時代／人種平等／優越論／人種平等論と階級打破論／結論

国際政局時評

華府会議善後……………四六―五一

米国内院／留保附可決／四国条約／反対派の論陣

「ジエノア」会議……………五一―五九

債務者の会合／米の不参加／労農政府と共産主義／露と外資／米と露／敗残の独逸／会議の帰結如何

国際時事研究

- エジプトの独立……………六六一六九
- エジプトとヨーロッパ諸国との関係／エジプトの歴史……………
- ロシア共産主義の現状……………七〇一七四
- 純理共産主義時代／出来高報酬／労働徴発……………
- ロシアと英仏……………七五一八一
- ロシアの飢饉……………八二一八四
- ポアンカレの立場……………八五一九〇
- 支那の南北統一……………九〇一九五
- 南北統一の成否／盧永祥氏とはどんな人か／周自齊氏署理國務総理任命事情……………九六一九七
- 独逸政界現状と共産党の昨今……………九八一九八
- フランス人の見たるフランス……………
- 国際聯盟の活動**……………
- 国際聯盟月報——第二回総会記事（承前）……………六〇一六五
- 政治問題／人道社会問題……………
- 常設国際司法裁判所の開廷……………九九一〇〇
- 国際労働局の活動——第十一回理事会・一月十七日より一月十九日まで……………一〇一一〇三
- 海外平和活動**……………
- 独仏労働者の提携……………一〇三一〇五

華府会議と米国労働者……………一〇六一—一〇八

オーラール博士に対する公開状……………博士 ハンス・デルブリック 一〇九—一一二

右に関する記者の所感／独逸人権協会より……………

米国軍縮ビラ……………一三—一三

之が我慢出来るか？／軍備か教育か？／九吋砲に向ひ／『戦争に備ふるは戦争を招く所以……………』

雑 録

ウキルソンとクレマンソー……………一四—一四

会員倶楽部欄に就て……………六五—六五

新刊紹介——東方通信社調査部編『華府会議大観』……………六九—六九

聯盟協会の研究会に就て……………七四—七四

四十五議会で の出来事に……………八四—八四

海外よりの通信……………一一四—一一六

濠洲国際聯盟協会より／英国の聯盟協会より／米国教会同盟より／本協会に対し通信を送りたるもの／活動写真による宣伝／アルゼンチン国際聯盟協会／パン・アメリカン・ユニオン／カーネギー平和財団／ウオールド・ピース・ファウンデーション／国際協会聯合会……………

会員倶楽部……………一一七—一二一

フランスから見た聯盟（在仏 太宰施門）／神経衰弱の仏国（M・I）／後方の英雄（潮）／日本の危い

過渡期（S・A）／特殊民族解放運動／シベリヤ合戦／無力有能の聯盟……………

同色人種間に於ける憎悪又は反感／白色人種と黄色人種／黒色人種に感ずる黄白人種の感情／人種の混合

国際聯盟

国際聯盟月報……………国際聯盟事務局情報部……………五三一―六四

総会後（大正十年十月より十二月に至る）の活動——理事会、委員会、国際会議／昨年（大正十年）中の聯盟の成績……………六四―六八

国際聯盟に於ける阿片問題概要……………六八―七二

第一回聯盟総会前の経過／第一回聯盟総会に於ける経過／第二回総会前迄の経過／第二回聯盟総会に於ける経過／第二回聯盟総会以来ノ経過……………七二―七四

国際聯盟に於ける婦人児童売買問題概要……………七四―七五

第一回聯盟総会前の経過／第一回聯盟総会に於ける経過／第二回聯盟総会前の経過／第二回聯盟総会に於ける経過／第二回聯盟総会以後の経過／土耳其に於ける婦人児童救済問題経過……………七五―七六

第二回阿片委員会……………七六―七八

国際聯盟の第十六回理事會……………七八―七九

国際時事

西伯利問題……………七九―八〇

大連會議顛末（四月廿日外務省公表）……………八〇―八二

印度無言の革命……………八二―八四

政治上／宗教上の原因／工業上の不穩／最大原因……………八四―九四

奉直の訂争……………九五一—一〇〇

由来／奉天軍の入関／奉天派の陣容／直隸軍の陣容／最近の戦況／両軍策戦批評／奉直の戦争と支那国民／東三省の独立

国際政局時評

ジエノア会議……………一〇一—一一九

失望すべからず／失敗は当然／一足飛び／須く露独側から／労農政府の行詰り／切抜策／新経済政策／対内政策／対外政策／外国貿易／外資吸収／妥協的態度／温和な爆弾／会議と露西亜／賠償と起債／今後の欧州／海牙会議

奉直争覇……………一九一—二二〇

統一と武力／同情ある後見か

挿絵（カリカチュア）

人類の向上……………一一一—一二一

あんな奴がはいる料理屋は御免だ……………一一一—一二一

恐ろしい発展力……………一二一—一二二

〔※無題〕……………一二一—一二二

国際雑俎

世界大戦の責任は何国に在りや……………一二三—一二五

独逸前外相ジモンスの戦争責任論……………一二五—一二六

勝利は平和を齎さず——仏国の世界平和国民協会の声明……………	一二六—一二六
「愛国」主義と社会主義者……………	一二六—一二八
ハンガリヤ国の総選挙と社会民主党……………	一二八—一二八
国際漫評……………	一二九—一三四
国際聯盟を保護すべし／賠償と国際聯盟／フランスの将来／陸軍縮小を断行せよ／軍器の製造を監督せよ／国際教育の建設／国際的救済事業／阿片問題を解決せよ／支那の戦争／日本の信用／日露独同盟は愚論なり……………	一三五—一三七
海外よりの通信……………	一三五—一三七
春季休暇学校／独逸に於ける平和団体聯合設立／独逸人權協會消息／奥国聯盟協會より／オツタワに於ける聯盟協會設立……………	一三八—一四五
日本国際聯盟協會 ……………	一四六—一四九
日本国際聯盟協會第二回総会記事……………	一四六—一四九
第二回総会／講演会／懸賞論文／研究会／人種平等待遇案／聯合会消息——少数民族保護及人種平等待遇問題……………	一五〇—一五一
会員倶楽部……………	一五〇—一五一
日本の神教(人類愛)／平和に対する誤解と正解(真)／大日本国粹会(X)／平和の挑戦(スペクテーター)／規約第廿一条(T・O)……………	一五二—一五二
アルメニヤ難民に対する日本国民の同情翕然として集る(一)……………	一五二—一五二

鳥取市因伯時報社 福田氏より／小原田一女学生より／千葉県明治村 桐谷銀杏氏より／婦人矯風会の
久布白女史

雑録

空想の力……………アナトール・フランス……………三〇―三〇

国際司法裁判所…………………………七五―七五

人種問題研究の爲めに左の諸点に関し御高見下されたし……………国際聯盟協会研究会……………一二八―一二八

国際教育問題研究委員会…………………………一三七―一三七

知的労働国際委員会…………………………一三七―一三七

国際聯盟協会理事増員…………………………卷末

第二卷七号(一九二二年七月一日)

働きに……………ミレー……………口絵

ミレーの家……………ミレー……………口絵

(※無題)…………………………卷頭言

論説

独逸賠償問題より見たる世界の平和……………青木得三……………三一―八

平和主義者の回顧…………………………キルバート・ボールズ……………九―一

国家主義の禍——戦後各国の関税政策…………………………コリン・アール・クート述……………一一―一七

平和の一要件・国際経済的共助／国家主義的関税政策の起因／国際聯盟の取れる政策／戦後各国の関税政策／国際聯盟の責務	一八一―二三三
日本に於ける教育の国際化運動	帝大 山口喬
莊嚴なる交響楽	二四―二六
学生と聯盟思想	二六―二六
国際聯盟	
国際聯盟の活動（本年一月）	二七一―三一
概説／聯盟の各種機関／各専門委員会／行政問題／政治問題／人道および社会問題	
時事	
近東問題の変転——セーヴル条約の改訂	三二―三八
三国外相会議／アドリアノーブルとスミルナの運命／少数民族保護の問題／財政委員会の発止／アンゴラ政府の態度／虐殺問題に対する態度	
支那旧国会回復と大統領	三九―四三
国会の回復／黎元洪出盧躊躇／孫文の態度／黎元洪愈出盧／両院議員北京に参集／奉直戦争其の後の形勢／奉直媾和	
日米貿易の過去及将来	四四―四四
生まれかほつたオーストリア	四五―四六
人種問題研究会成績	四七―五〇
	稲垣守克

国際政局時評

- 国際聯盟……………五一一―五二二
- 人種案通過す／独逸の加盟……………五三一―五三八
- 海牙会議……………五三一―五三八
- 協調の気分／ポアンカレ／英と仏……………五八一―六五五
- 独逸の国際的起債問題……………五八一―六五五
- 起債談／国際公債と独逸／無期延期／モルガン／米国の意向／独逸の国論／樂觀して可なり／大借款か……………六六一―六六六
- 小借款か……………六六一―六六六
- 米と欧……………六六一―六六六
- 対労農露西亞／対聯合側諸国……………六六一―六六六
- 世界の声
- フランス人に告ぐ……………六七一―六八八
- アナトール、フランスの戦争観……………六九一―七〇四
- 世界のインテリゲンチヤに訴ふ……………七五一―七五五
- 戦線の明方〔※小説〕……………七六一―七八八
- 国際聯盟の将来……………七九一―八一
- バーミンガムに開催されたるイギリス国際聯盟協会総会の決議せる将来の政策……………八二一―八二二
- 世の母たる人へ……………八三一―八四四
- ベンジャミン・キッドの「力の学」……………八五一―八八八

国際親善の楔としての運動競技	八九―九一
娯楽と教養	九二―九三
ノー・モーア・ウオア示威運動	九四―九五
米国の海軍兵員（下院の討議）——六万七千か？八万六千か？	九六―九七
米国学生の軍縮運動	九八―九九
アンクル・サムの金の使ひ方	一〇〇―一〇〇
撮影監督グリフィスの映画	一〇一―一〇二
ゼノア会議に集つた婦人	一〇三―一〇三
陸軍縮少運動と其の後	一〇四―一〇五
海軍縮少の実行案——総額五億六千万円・剰余金僅か一億未滿	一〇五―一〇五
教育の改革——時事新聞社説（五月廿六日）	一〇五―一〇六
国際的同情心	一〇六―一〇七
アルメニア難民に対する同情集る	一〇七―一〇七
会員倶楽部	一〇八―一〇九
廢兵（路傍生）／よい鉄とよい男（上海生）／国の字の有無（始皇帝）／国を売りたるもの（二車夫）／平和の行列（反軍国主義者）／兵隊は道楽でない（実見生）／井戸端会議と新聞（不満足）／西洋式小笠原流（赤毛布）／電車中の注意（腰弁）	一一〇―一一一
海外の平和運動	一一〇―一一一
イギリス／フランス／スエーデン・ノルエー／国際平和大会の催し／スイス／国際議会聯合	一一〇―一一一

概説／ゼノア会議／伝染病会議／聯盟委員會／專門委員會
時事

米國聯盟に近寄らんとす……………	申田万蔵	二三―二三
欧米の印象を語り日本人の覚醒に及ぶ……………	大橋新太郎	二四―二四
世界經濟の復活と独逸賠償問題……………	男爵 中島久万吉	二五―二八
通貨の膨脹／賠償問題／独逸の經濟力／教育問題……………		
欧州經濟界の現状……………		二九―三六
生産機能の麻痺／各國政府の財政壞乱／通貨の膨脹／外國為替の失調／賠償金問題／不景氣と失業／外國貿易打撃の一原因……………		
露西亞の經濟的苦境と其將來……………		三七―四一
留意するべき二三の經濟事情／旧經濟政策の失敗／露國の經濟的復旧……………		
露國に於ける女子國有說並に知識階級の運命……………		四二―四三
女子の國有／知識階級の運命……………		
ロシアの飢饉……………		四四―四五
北伐と内訌——廣東の政變……………		四六―五一
北伐軍況／孫陳軋轢／クーデター／善後策……………		
秘露國外人登録稅問題批判……………	バチリエール・デ・ラス・レイエス 竹島雄三	五二―五四
白濠主義……………		五五―五六

国際精神と教育	高島平三郎	九九一九九
国際聯盟と頭の改造	海老名弾正	九九一九九
世界平和と人民同盟の宣言		一〇〇一—一〇三
米國輿論管見		一〇四—一〇五
人類の結合	東洋大学 宮本光玄	一〇六—一〇六
日本国際聯盟協會と人種案		一〇七—一〇九
本邦政府に対し聯盟總會第一回會議に提案方努力／聯合會第五回總會に提案／人種差別待遇撤廢研究委員會／本會の方針		
ノーベル賞金		一一〇—一一〇
會員俱樂部		一一一—一一一
平和の使（通行人）／汽車の中（旅行者）／国際聯盟と愛（吉田善信）		
雜 錄		
本會の消息		一〇五—一〇五
懸賞論文（大正十一年度）	国際聯盟協會	一一二—一一二

第二卷九号（一九二二年九月一日）

マルクの臨終		□ 繪
共和制擁護の大示威運動（伯林）		□ 繪

ラテナウ暗殺の場所(グリユネワルド).....口 絵

ドイツさんこれでも出さぬか.....口 絵

本誌の新しいき努力——国際智識.....社 告

独逸賠償とラテナウ.....一 一六

ラテナウ暗殺さる／なぜ暗殺された？共和政擁護が原因か 賠償の履行が原因か／彼の死と共に馬克の

暴落／ラテナウはカンヌ会議に出席す／カンヌ会議に於ては賠償額はどうか協議され どうか決定したか／

本年度賠償支払額 現金七億二千万金貨馬克 実物十四億五千金貨馬克を支払ふ為めには 外債の必要

が生じた／銀行家会議／銀行家会議と賠償委員会／七億二千万金貨マルクとは／独逸の支払不能 賠償

問題の前途

ラテナウの死.....五 一五

左党の激昂.....六 一六

債権債務の帳消——ロンドンの会合.....七 一〇

ロンドン会議賠償支払の猶予／バルフォアの通告 英より仏、伊、羅、塞、葡、希へ／英国の米国に対

する債務、英国の他国に対する債権／米国の請求した理由／英国の間接射撃 債権抛棄？賠償金抛棄？

仏蘭西アスサスローレンより独逸人を放逐す.....一 一 一二

戦争.....挿 絵

戦争.....挿 絵

欧洲の復興と人類

世界経済の復興.....本会理事・法学博士 添田寿一 一三一 一五

歐洲の復興……………	海外財務官 森賢吾談	一六一—一六六
歐洲經濟の復興……………	本会理事・法学博士・男爵 阪谷芳郎	一七一—一七七
ゼノア會議とヘーグ會議……………		
ゼノア會議とロシヤ問題……………	ゼノア會議帝國全權委員 森賢吾談	一八一—二四四
ゼノア會議と國際聯盟／目的／復興会社／勞農ロシヤ／ボルシエビズム／カンヌ六原則／ゼノア會議組 織／チチエリンの人氣／露仏の衝突／露とカンヌ決議／ロシヤの逆襲五百億ルーブル／ロシヤの回答／ 戰時國債／財産權／ロシヤの立場 革命の意義／ヘーグ		二五—二八
ヘーグ會議……………		二五—二八
ゼノアからヘーグ／ロシヤ強硬／ロシヤ弱からず／會議三問題／債權／私有財産／信用貸／閉會		二九—三四
ゼノア會議を背景として歐洲の國際關係……………		二九—三四
失敗は当然？／ロイド・ジョージの賭博／會議後の形勢／英仏今後の關係／英國思想と大陸思想		二九—三四
賠償問題		
独逸賠償問題の当初より今日まで……………		三五—五七
序／平和條約の規定／倫敦最高會議迄の賠償問題／最近の賠償問題……………	杉森孝次郎談	五八—六三
近代國家の原則と其將來……………		五八—六三
政治／外延的進化／内包的進化／國家の外延的拡大／帝國主義と文化主義／友聯主義／内包的進化／責 任自治体としての組合／進化／結論……………		六四—六五
物価騰貴の經濟的觀察……………		六四—六五
物価騰貴と國民生活／物価とは何ぞや／物価と貨幣／物価騰貴の原因／通貨の増加／金を海外に出せ		六四—六五

回々教と其の教徒の晩近に於ける運動——国際関係の新現象……大久保幸次	一一四—一二六
教祖ムハンマンドの生活／回々教の教理／宗派と現今の状態／晩近に於ける回々教の運動	一二八—一三五
アインシュタイン氏の相対性理論……理学博士 石原純	一三六—一三六
アインシュタインの驚くべき発見〔※漫画〕……	一三六—一三六
国際都市の建設——博覧会の歴史と現在、理想と新計画、世界の中心、	一三七—一四八
国際聯盟との関係、人類努力の紀念……	一三七—一四八
白耳義に於ける千九百三十年の万国博覧会並に国際市の建設／結論	一三七—一四八
国際聯盟協会	
愛媛支部発会式……大熊	一四九—一五〇
香川支部設立……大熊	一五〇—一五二
日本国際聯盟協会便り……	一五三—一五四
鎌倉夏期大学状況／回顧／最近は／其他	一五三—一五四
雑 録	
特別会員・研究会予告・最近出版物〔※社告〕……	三四—三四
ブタペストに於ける聯合会理事会……	七六—七六
日本の協会の性質〔※国際聯盟協会と最近刊行物の紹介〕……	七六—七六
日本におけるロシア救済事業……	九九—九九